

挑戦する心 第3弾～生徒の頑張りを紹介～

JOCジュニアオリンピック第38回全国都道府県対抗中学バレーボール大会

最優秀選手賞 大阪府知事賞 次世代有望選手賞 獲得

中学3年 大雲舞子さん

大会規定により、
写真の掲載を差し
控えます。[大雲選
手のブロック]



ファーストペンギン通信

未来のオリンピック選手育成を目的として、この表記の大会が行われています。バレーボールは毎年12月下旬の4日間、大阪市中央体育館等で開催されます。

本校からは、大雲選手が選ばれ、東京チームの一員として出場しました。

決勝は、初優勝を狙う京都と前回大会ベスト4の東京が対戦しました。前回大会王者の大阪北を破って決勝へと勝ち上がった東京でしたが、

大会規定により、
写真の掲載を差し
控えます。
[大喜びの東京チーム選手たち]

まさかの2セットを取られ、準優勝となりました。

ジュニアオリンピックに出場する選手は、体力的に優れているだけでなく、試合中の緊張感やプレッシャーをコントロールできるメンタル面の強さも必要とされます。また、全国レベルの大会では技術力だけでなく、チーム内での役割を果たすためのコミュニケーション力も求められます。こんな高いハードルを越え、なおかつ、その中で最優秀選手賞まで獲得した大雲さんにインタビューしました。

①決勝戦を戦って得たことは何ですか。

負けたからこそ、自分の課題が見つかったり、これからさらに頑張ろうと思いました。

大会規定により、
写真の掲載を差し
控えます。[試合前
の選手整列]

②バレーボールを始めたのはいつ頃ですか。

小学1年生のころです。

③今までのバレーボールの練習・試合などで、つらかったことは何ですか。

自分の納得いくプレーができない試合があったことです。

④逆に、バレーボールを続けてきて良かったと思えることは何ですか。

バレーボールをしていなかったらできなかった貴重な体験をたくさんさせてもらったことです。

⑤将来の夢を教えてください

日本代表になって世界で活躍する選手になることです。

大会規定により、
写真の掲載を差し
控えます。[大雲選
手のアタック]